

学校法人 高田学苑
高田短期大学育児文化研究センターだより

IKUBUN NEWS

第9号 2009.2.5

発行 高田短期大学育児文化研究センター
〒514-0115 三重県津市一身田豊野 195
TEL 059(232)2310(代表) FAX059(232)6317

ママを応援！ ～子どもの夢を育む相談事業「子育てママのホッとひろば」

子どもの夢を育む相談事業「子育てママのホッとひろば」は、本年の新規事業です。臨床心理士の資格を持つ研究員がコーディネーターとして、ゆったりとした雰囲気の中で、子育て中の母親を対象に悩み相談を受けるプログラムです。核家族化・地域関係の希薄化が深刻で育児不安・育児負担感の強い現代社会においては、子育て中の母親が子どもと離れて自分の思いを出すことができる貴重な場を提供しています。相談事業の充実は、センター設立当初からの悲願でした。多くの参加申し込みがあり地域の母親のニーズの高さが伺われました。また、母親から離れた場所で子どもを預かるような託児の形も初めてでした。母親が安心して預けることができ、子どもがその時間を安全に楽しく過ごすことができるように子育て応援隊学生との十分な打ち合わせができ学生にとっても貴重な体験になった取組でした。

パパを応援！ ～みえ次世代育成応援ネットワーク主催「子育て父親応援教室」

近年、少子化の進行を背景に父親の子育て参加が叫ばれるようになってきています。しかし、その実態は難しいようです。その要因は様々ですが、父親たちが子育てに対して持つ「義務的」なイメージではないでしょうか。子育てを義務感からではなく積極的に楽しむことができれば、父親たちはもっとどんどん子育てに参加するでしょうし、それによって、父親であることの幸福感を味わうことができるでしょう。そのような期待をこめて、昨年に引き続き、次世代育成応援ネットワーク主催「子育て父親応援教室」の本学でのテーマは、「楽しい子育てを支援するパパのためのベビーマッサージ体験とふれあい遊び」です。しっかりふれあい、赤ちゃんが喜んでくれることでパパの子育てに対する自信もついたのでないでしょうか。参加されたパパの熱心な子育てへの姿勢からは明るい未来が期待されます。

平成19年度・20年度と育児文化研究センターは、特色ある教育支援プログラム(特色GP)事業として、研究員・客員研究員が子育て応援隊学生と共に協同し、地域と密着した多彩なプログラムを展開して参りました。今後もそれぞれのプログラムの内容を吟味し進めていく所存ですので、どうかよろしくお力添えをお願い申し上げます。

育児文化研究センター長 梶 美保



問い合わせ・アクセス

… 6頁

研究員の活動紹介・新入会研究員の紹介

定例研究会報告

… 5頁

・企画事業
・社会的活動への参加

… 4頁

平成二十年度事業報告

… 2頁

子どもの夢を育む地域支援プロジェクト

… 1頁

センター長挨拶

・平成二十年度重点事業

CONTENT



子育て応援隊 in わくわくフェスタ

平成 20 年度事業報告

平成 20 年度の重点取り組みとして昨年度に引き続き「子どもの夢を育む地域支援プロジェクト事業(特色 GP 事業)」を企画しました。恒例の「子どもひろば」や「絵本の読み聞かせ」講座の充実、新規講座の相談事業「子育てママのホッとひろば」などを開催しました。また、子育て応援隊が子育て・保育施設や自治体主催事業に積極的に参加、活躍しました。以下に、報告します。

< 詳細はホームページ 高田短期大学 > 育児文化研究センター > 活動内容

<http://www.takada.jc.ac.jp/cgi-bin/ikuji/list.cgi> をご覧ください。 >

(企画事業)

(1) 0・1・2 歳児のための子どもひろば

(0 歳児 : H20, 7/12・10/4 1・2 歳児 : H20, 6/28・11/15 於: 本学育児文化室)



センター事業の中でも地域の親子に親しんでいただいている恒例の講座で本年度も多くのご参加がありました。0 歳児対象の講座ではベビーマッサージや「母乳について」などのミニ講座、学生によるふれあいあそび、そして個別の育児相談を行いました。講師は、開業助産師で本学



客員研究員鈴木照美さんと助産師の山中希和さんでした。

1・2 歳児対象講座では、幼児体育、幼児音楽が専門の講師によるリズムダンスや親子で楽しむふれあいあそび、子育て応援隊学生による人形劇やパネルシアターを行いました。また親子で手作りおもちゃも制作しました。講師は、榊原尉津子研究員と山本敦子研究員でした。子育て応援隊学生は延べ 20 名でした。参加者は 4 回の講座で計 159 名となりました。



(2) 子どもの夢を育む絵本の読み聞かせ (H20, 10/11・11/9・12/13・H21, 1/17 於: 本学育児文化室)

今年度は、4 名の講師陣によりさらに充実した内容で行いました。10 月



と 11 月はの中井千保子客員研究員、子ども読書研究家の生川晴美さんにより日本の昔話や世界の名作、話題の絵本など、数多くの絵本をじっくりと楽しみました。また、音楽を交えた読み聞かせや親と講師との絵本についてのディスカッションも行われました。



12 月と 1 月は岩附啓子・安藤はるみ両客員研究員による講座で、子どもの年齢にあった絵本の選び方・読み方についてのアドバイスや手遊び・ふれあいあそびを交えながら子どもたちに人気のある絵本や大型絵本の読み聞かせが行われました。また、子育て応援隊学生による絵本を題材とした劇あそびが行われ子どもたちをより一層絵本の世界に誘いました。子育て応援隊学生は延べ 19 名でした。参加親子は 4 回の講座で 34 組 85 名となりました。



(3) 子どもの夢を育むキッズクッキング(H20,6/13・12/13 於:本学調理実習室)



幼児期から食の大切さを学んでもらおうと2回の講座を開催しました。6月実施の講座は津市内の保育園児(4~5歳)対象に行いました。野菜たっぷりカレーと野菜サラダ、6種類の味が楽しめるカラフルゼリーをみんなで協力し合って作りました。12月は、津市内の小学1・2年生25名が



参加し友達と協力して作る楽しさ、食材への関心、大人と一緒にではなく子どもだけで作る面白さを体験してもらえよう企画し、五目ちらしずし、あられ汁、いちごのふるふるゼリーの3品に挑戦しました。子育て応援隊の学生達は、子どもたちに包丁の握り方や短冊切り、いちょう切り、半月切りなど野菜の切り方を教えながら、出来るだけ子どもたちだけで調理できるようアドバイスをしました。講師は、6月は駒田聡子客員研究員、12月は鷺見裕子講師(本学人間介護福祉学

科教員)が務めました。子育て応援隊学生は延べ14名でした。参加人数は2回の講座で50名となりました。

(4) 子どもの夢を育むマタニティーコンサート(H20,10/18 於:アスト津 アストホール)



ホスピタリティー事業を展開している「プリランテ」の協力の下、関西二期会所属の歌手やヴァイオリン、ピアノ奏者による胎教によいとされる音楽15曲が演奏されました。また、本公演のコーディネーターで「プリランテ」代表でもある増田久美子さんからは曲の合間に音楽が妊婦さんや赤ちゃんにもたらす効果、効能についての話がありました。妊婦の方とその家族約100名が来場され、音楽とともにゆったりとした時間を過ごされました。子育て応援隊学生も5名が協力し、受付や舞台の裏方などで活躍しました。



子育て応援隊学生も5名が協力し、受付や舞台の裏方などで活躍しました。

(5) 子どもの夢を育む 子どものための製作ひろば「親子で楽しむ手作り絵本」

(H20,8/31 於:本学造形演習室)

親子の対話、協力のきっかけづくりを目的として、絵本の共同製作を行いました。画用紙や厚紙を使用して絵本の土台を手作りし、そこに親子が話し合い、協力して考えた物語や絵を構成していきました。約3時間かけたオリジナルの楽しい手作り絵本に親子のみなさんは大変満足されていました。子育て応援隊学生は絵本の製本を指導しながら子どもの創作活動への意欲を引き出していました。講師は、わけびき真澄研究員で子育て応援隊の学生5名が協力しました。参加者は15組の親子34名となりました。



(6) 子どもの夢を育む育児相談「子育てママのホッとひろば」(H20,6/21・10/18・11/22 於:本学第4会議室)

橋本景子研究員をコーディネーターに、現在子育て中の参加者が、日頃の子育ての悩みや喜びなどを出し合い、経験を交流しました。参加者はひととき子どもから離れ、お茶とケーキを前にリラックスした雰囲気では話を弾ませていました。聴いてもらいたいことなどを存分に出していただいたのか、お母さん方の講座終了後の爽やかな表情が印象的でした。託児にかかわった子育て応援隊学生は実習とはまた違った姿勢で子どもたちとの時間を過ごしました。子育て応援隊は延べ40名でした。参加者は3講座で70名となりました。



(7)父親教室<学校行事> (H20,10/22 於:本学育児文化室)

みえ次世代応援ネットワーク主催の「子育て父親応援教室」が開催されました。第一部は梶研究員を講師として「パパとベビーマッサージ」、第二部は池村研究員指導で学生企画による「ふれあい遊び!うた遊び!」を行いました。2ヶ月から10ヶ月の赤ちゃんとそのお父さんたち、そして心配そうに見守るお母さんたちが集った講座は大変微笑ましいものとなりました。



子育て応援隊は延べ42名でした。参加親子は23組、65名となりました。

(8)馬とふれあう親子フェスタ2008<学校行事> (H20,11/23 於:本学構内、馬場)

地域の皆さんに楽しみにしていただいている本フェスタも5年目を迎えました。今回は約59組201名の親子・家族の参加があり、津市をはじめ鈴鹿市・伊勢市からも来ていただきました。



馬術部員による馬術演技披露のオープニングから、「ポニーの馬車でのお散歩」「ポニーの乗馬とえさやり」遊びのコーナーとして「ロディ君にのろう!」「小動物と触れ合おう」など多彩なコーナーでにぎわいました。また、地元の商工会議所の協力を得て「ふるまいぜんざい」も行いました。



職員25名、子育て応援隊学生25名、高田中学生・高校生馬術部員12名、が参加し活躍しました。

社会的活動

「子育て応援隊」として様々な活動に参加、協力しました。

~子育て応援隊活動一覧&スナップ集~(スナップ写真番号は一覧表のNo.です。)

No.	月日	行事名	活動内容	人数	場所	主催
1	4月18日 ~21日	大恩会・「よみがえる 昭和一身田」	おまつり広場などの手伝い	38名	高田本山及寺内町 周辺	一身田観光振興懇 談会
2	5月21日	高田本山降誕会	保育園・幼稚園児による バルーンリリースなど	4名	高田本山境内	一身田商工振興会
3	6月29日	ぐみの木保育園 ぐみの木まつり	託児・模擬店応援	6名	ぐみ木ほいくえん	ぐみ木ほいくえん 保護者会
4	7月6日	一身田七夕祭り	バルーンアート	5名	一身田仲之町通り	一身田青年団
5	7月7日	つ七夕まつり	バルーンリリース準備	3名	岩田川観音橋	津青年会議所
6	7月12日	高田保育園夏祭り	保護者と共にコーナー準 備と実践	25名	高田保育園	高田保育園
7	7月19日	まつさか幼稚園納涼会	コーナーの準備と実践	6名	まつさか幼稚園	まつさか幼稚園タ ンボボKIDS
8	7月22日	高田幼稚園夏まつり	模擬店の手伝い及び園児 誘導補助	20名	高田幼稚園園庭	高田幼稚園
9	7月26日	いせファミリー・サ ポートセンター交流会	アート・バルーンの遊び の指導	5名	伊勢市生涯学習セン ター・いせとびあ	いせファミリー・サ ポートセンター交流 会
10	7月27日	原永町盆踊り	バルーンアート、店の手 伝い	4名	春日神社	原永盆おどり実行 委員会
11	8月5日	学童保育バルーン体験	バルーン体験講師	3名	成美放課後児童クラ ブ	成美放課後児童ク ラブ
12	8月26日	学童保育バルーン体験	バルーン体験講師	2名	一身田小学校体育館	一身田地区放課後児 童クラブつくし会
13	10月4日	高田保育園運動会	バルーンリリース	2名	高田保育園	高田保育園
14	10月12日	津まつり	バルーン等	10名	NHK前 中日新聞ブース	中日新聞
15	10月14日	高田本山合同参拝	バルーンリリース	10名	高田本山 御影堂前	三重県仏教保育協 会
16	11月3日	松阪氏郷まつり	バルーンアート	5名	中日新聞ブース	中日新聞
17	11月8日	子育て父親応援教室	ベビーマッサージ	42名	育児文化研究セン ター	みえ次世代育成応 援ネットワーク

18	11月23日	子どもの権利条約フォーラム	会場案内	2名	津駅	第16回子どもの権利条約フォーラム
19	12月4日	自立体験活動 バルーンアート教室	バルーン体験	6名	津市立教育研究所 2F研究室	津市教育支援センター ほほえみ教室
20	12月13日	生活発表会	生活発表会の補助・舞台 設定の手伝い	25名	高田短期大学講堂	高田幼稚園
21	1月7日	学童保育バルーン体験	バルーン体験講師	4名	成美放課後児童クラブ	立誠放課後児童クラブ
22	1月17日	地域活動ボランティア講座 バルーンアート講習	アシスタント	2名	伊勢市福祉健康センター	伊勢市社会福祉協議会
23	1月31日 ~2月1日	子育て応援！わくわく フェスタ	会場装飾 高田短期大学ブース	49名	四日市ドーム	みえ次世代育成応援ネットワーク



1. 大恩会



2. 高田本山降誕会



4. 一身田七夕祭り



6. 高田保育園夏祭り

12.

学童保育
バルーン
体験



14. 津まつり



14. 津まつり



15. 第41回高田本山合同参拝

定例研究会報告

高田短期大学にて第19回(7/23)、第20回(10/15)、第21回(12/3)の定例研究会を行いました。

第19回

テーマ:今、求められる保育について ~子どもをとりまく環境の変化から考える~
レポーター:池上綾子客員研究員

子どもを取り巻く環境を踏まえた今後の幼児教育のあり方や家庭及び地域に於ける幼児教育の支援、保育者としての資質向上について日ごろ新規採用教員へ指導している内容も含めた報告がありました。

第20回

テーマ:研究保育実践報告-鈴鹿市立河曲幼稚園における共同製作への取り組み-
レポーター:わけびき真澄研究員

「ちぎって、貼って、写して遊ぼう」と題した5歳児の園児たちの紙版画共同製作への取り組み実践報告が行われました。造形活動の楽しさはもちろん、製作過程での友達との意見交換や互いに協力して一つのものを作る難しさ、完成した時の喜びを味わえることが子どもの成長発達に大きくかかわることが実感されたとのことでした。

第21回

テーマ:幼児と昔話絵本 ~かいま見た幼い子ども達の心の世界~
レポーター:中井千保子客員研究員

最近の昔話絵本離れの現状から、積極的に昔話の読み聞かせを行う中で子どもたちの様子やその保護者の受け止め方などがレポートされ考察が行われました。また活動をとおして「幼い子ども達一人ひとりの心の世界まで昔話絵本をとおしてかいま見ることができた」と、大人からは想像できないような子どもの心の世界をお話いただきました。

研究員の活動紹介・新入会研究員の紹介

小池はるか研究員(新入会)

今秋、本学子ども学科助教、及び育児文化研究センター研究員として着任いたしました。

前職では、独立行政法人科学技術振興機構の「すくすくコホート」という研究プロジェクトに心理研究員として参加し、約200名のお子さんを0歳から3歳半まで継続的に調査してきました。同じお子さんを時系列的に追跡していく中で強く感じたことは、従来考えられている以上に、周りの大人のかかり方が子どもの社会性の発達に影響することです。これらの経験・知見を生かし、センターの活動に貢献できるよう微力ながら努めてまいり所存です。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



廣瀬 悦子客員研究員(新入会)

保育園の保育を通して、昨今の子どもの育ちや保護者の方の育てへの願い、思いを身近に感じてきました。現在は絵本についての勉強を始め、いろいろな方から学んでいます。絵本の中のことばはひとこと、ひとこと選び抜かれたことばです。描かれている絵も一場面、一場面がおはなしを物語り次のページへと誘ってくれます。そのようにして作られた絵本を親子で楽しみ共感する体験はその親子にとっての財産です。子どもが幼いとき親子の関係を確かなものにしていく時期の大きな味方です。親子で絵本の世界の中を共有した体験はあたたかさの中であって子どもの世界を広げ、困難に立ち向かう勇気をこころの奥深くに育ててくれます。そうした体験を、たくさんの親子にたくさんしてほしいと思います。そしてわたしもたくさんの親子とともに、あたたかい体験をしていきたいと思っています。



橋本 景子研究員(活動報告)

「子育てママのホットひろば」今年度は7月、10月、11月の3回開催しました。集まった十数名のママたちに、日頃の疲れを少しでも癒して頂こう、心の奥にたまっているものを少しでも吐き出して頂こう、という思いで始めたものです。「子育て」って、みんながやっているからあたり前のように思われていますが、本当に大変なもの。人生最大のひと仕事です。だからイライラすることもあるし、ついつい子どもや夫、周囲にあたってしまふ、なんてことにもなりかねません。鏡で見たらびっくりするくらい怖い顔をしているときってありますよね。ほんの少しでも、癒される場があるとそれは少しでもやわらげられます。こんな「少し」のことが子育てや人の心には大切なことなのです。いろんなところでこういう場が開催されるようになればいいと願っています。「子育て」それはひいては日本の将来にも関わる大切なことだと考えています。

川村みや子(センター事務担当)

「子どもの夢を育む地域支援プロジェクト事業」にセンター事務として参加させていただき、ありがとうございました。子育て中のお母様や子ども達から「楽しかったよ!」ととてもよかったです。」という喜びの声を聞かせていただき大変うれしく思いました。地域皆様の交流の場として、各講座への参加をお待ちしております。

センターへのお問い合わせ・アクセス

高田短期大学育児文化研究センター
住所 〒514-0115 三重県津市一身田豊野 195
Tel (059)232-2310
Fax (059)232-6317
高田短期大学 内線 123 番
Mail ikubun@takada-jc.ac.jp



編集後記
世界的な不況の中、平成二十一年が暮を開けました。新しいニューズが多く、これからどうなるのかとやりきれなくなりませんが、子どもたちの周りは明るく照らすことができよう、来年度もセンターの役割を果たしていきたいと実感しています。
(T・F)